

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 5月 29日

事業所名 児童発達支援つばみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		二つの活動スペースは広さも十分に確保でき、状況に合わせて使用できる。	室内の広さには満足して頂けているものの、駅周辺の店舗であり、屋外スペースが無いため、近隣の公園を使用する。
	②	職員の配置数は適切である		○	人力的には満たしているが、募集を継続し欠勤に備えた体制を整える努力はしている。	職員のお子様が体調を崩してしまった時などで欠勤した時に人手不足を感じている職員もいるため募集を継続している。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		全てのスペースの床に衝撃吸収マットを敷き、利用者様の安全を確保している。またマットの厚みでバリアフリー化も図れている。	部屋が分かれていることから死角がしやすい構造であるため、職員の中には全体を見にくいという意見もあったため、人員数の見直しや指示方法を検討していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日掃除や消毒を欠かさず行っており、感染状況によっては1日に2～3回消毒を行ったりしている。	各部屋や玩具などの消毒を欠かさず行い清潔保持はできていると思える。お子様が心地よく過ごせるには定期的に床マットの交換を行っていく必要がある。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		会議等で取り組みを実施した内容を振り返り職員間で情報共有している。	改善点を出し、実行できているが、振り返りは不十分であるため、今後も会議等で振り返りをする機会を増やす。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様の意見を確認しながら業務改善を図り、可能な限り対応している。	自己評価表を使用し保護者様の意見や意向を大切にしながら、より良い療育支援が行えるように職員で検討する。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している				
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者から指摘を受けた際は直ぐに改善案を出し業務改善に繋げている。	今後はアンケートなどを活用し、第三者からの意見を多く聞き取り、更に業務改善を図っていく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内でのケース会議でお子様の特性などについての研修を行っている。	事業所内で研修は行っているが、職員のスキルの向上を図るために外部研修に参加する機会を増やしていく。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		お子様一人一人の特性に応じた支援方法をご家族のニーズと照らし合わせて計画作成を行っている。	現在も契約時にアセスメントを適切に行い、特性の把握、ご家族のニーズを大切にしているが、成長スピードが速いため、こまめに再アセスメントを実施する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	ご家族が発達外来で行った検査結果を頂いているが活用はできていないため今後検討する必要がある。	遠城寺式乳幼児分析的発達検査などの簡易的に発達段階を知れるものを使用し職員間で共有し目標等の見通しができると良い。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		個々の障害特性に応じた支援方法を検討し実施している。モニタリング時に振り返り、今後の課題、支援目標を設定している。	S領域（健康・生活）（運動・感覚）（認知・行動）（言語・コミュニケーション）（人間関係・社会性）を具体的に記載した個別支援計画書をもとに、職員全員で支援を統一し利用者様に提供し、定期的にモニタリングを行う。

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		毎月の会議でケース会議を行っており今後の支援内容、目標を皆で周知している。	今後もケース会議を通して一人一人のお子様をより深く理解し、よりきめ細かく必要な療育支援を職員全員で検討し共有していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者様によって活動内容を考える事を優先できるように職員間で話し合っている。	現在はメインで行っている職員が主となり立案しているが、今後は職員一人一人が立案できるように体制を整えていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		担当者が新しい活動を一つでも増やしていけるように立案し職員間で共有している。	担当者が固定されている事から広がりが出ない傾向にあるため、担当者を月毎に変更していく体制にする。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		粗大運動や微細運動を取り入れた個別訓練や集団活動を行う中でお子様一人一人の様子に合わせて作成している。	一人一人の利用者様の成長に伴う様子変化にて対して適宜にアセスメントを行い、活動プログラムを見直したり、増やしていく事を目標にしていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングの際に、活動内容等や使用する部屋、職員配置、配布物などを確認・共有している。	現在は朝のミーティングで共通認識できるように確認できているが、今後は職員全員が一目で見て役割が分かるように1日のスケジュール表を作成しシステム化する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員全員で話し合う時間が少ないが、休憩時に少数の職員で話し合い共有している。	休み時間等話す事はあがるが皆で集まって共有する時間が少ないため、そのような時間を作っていく必要がある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々記録を取り職員間でコミュニケーションを取り検証し改善を図っている。	現在も職員間でコミュニケーションを取り検証し改善を図っているが、今後は更に内容を具体化させ、より良い支援を検討していく。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的モニタリングを実施しており、その時の状況に応じて計画の変更を行っている。	児童発達支援では、成長のスピードが速く数か月で変化が見られるため、よりきめ細かく支援を見直していく必要がある。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		今の所は障害児相談支援事業所のサービス担当者会議の実施機会がない。	今後、障害児相談支援事業所と連携を図るための担当者会議が開催された時は児童発達支援管理責任者が参加し、利用者様の状況を関係者に細かく伝える。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		木更津市役所発達支援課とは不定期で利用者様の近況をお伝えしている。	木更津市役所発達支援課で開催している交流会等に参加し、木更津市役所発達支援課との連携を深めていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		当事業所を利用している利用者様について、不定期ではあるが、現状を共有するための会議を行っている。	現在は状況の共有ははかれているが、移行支援としての会議は実施できていないため、今後は会議の頻度を増やしていく必要があり移行支援としての取り組みも行う。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		現在はまだ小学校との移行支援としての取り組みを行う機会がない。	現在は年長児が数人利用しているが、今後小学校との間で情報共有と相互理解を深めスムーズに就学に移行できるように取り組んでいきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		今の所は、障害のないお子様と交流したり活動する機会がない。	発達支援課などから情報を得て、今後障害のないお子様と交流したり一緒に活動を行う機会が作れる環境を整える。

	②9	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	自立支援協議会や子育て会に参加できていない。	今後は発達支援課が行っている交流会などに積極的に参加できる体制を作っていく。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○	活動の様子の画像を毎日保護者様に配信しており、保護者様からの相談には随時対応している。	今後、保護者様との共通理解を深めるために、連絡システムを導入し、より風通しが良くなるように対応していく必要がある。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	現在は、家族支援プログラムを行っていない。	今後は、職員が家族支援プログラムの支援を行うことができるようにするため、職員に勉強する機会を提供できるように体制を整える。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○	契約時に事業所の規程や利用者負担額等について説明している。	契約書やパンフレット、活動中の画像などで説明しているが、更に詳しい内容が伝わるようにパンフレットを見直したり別紙を作成する。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		○	児童発達支援管理責任者がご家族からのニーズを確認し支援内容と照らし合わせて個別支援計画書を作成し、保護者様に説明した上でご署名を頂いている。	今後はモニタリングや計画書作成時にご家族と面談などを行う機会を作り、お子様の成長発達を促していける体制作りを行っていく。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○	保護者様からの相談があった時は児童発達支援管理責任者が随時対応している。	今後は家庭支援なども活用し、ご家族の悩みや相談を支援していく必要がある。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	現在は父母会や保護者会などは行っていない。	今後は、保護者参観など保護者様も一緒に参加できるようなイベントなどを検討していきたい。そして、保護者様が参加できるイベントを通して、保護者同士が交流できると良い。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		○	現在は児童発達支援管理責任者が中心となって保護者様からの相談や申入れに対応し、その内容を職員間で共有している。	児童発達支援管理責任者以外の職員が、保護者様からの相談や申入れを受けた際、早急に管理者に報告したり、朝のミーティング等で共有して話し合い、保護者様に迅速に回答できるようにしていく必要がある。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	現在は、まだ児童発達支援つぼみの活動内容を保護者様に伝えるようなツールはない。	現在はホームページを作成しており、今後は定期的にそのホームページ等にて、児童発達支援つぼみの活動概要や予定行事などを伝えていく。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している		○	個人情報が書かれたファイルは、鍵付き書庫にある。他事業所と書類のやりとりをする際は、伏字にしている。	個人情報に関する内容が書かれている書類を取り扱う際は、個人情報が見えないように置いたり、使わないときは片付けるなど丁寧に対応する。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○	ご利用者様の活動内容や必要な情報の伝達はおこなっているが、完璧に配慮しているとはいえない。	今後はどの職員が対応しても、ご利用者様や保護者様に寄り添った質の高い対応ができるように教育していく必要がある。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在は、地域住民を招待するような行事などは行っていない。	ご利用者様が安心して過ごせることを優先とするため、大勢の地域住民を招待するような行事は今後も行う予定はない。
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	各マニュアルは作成しているものの、十分に訓練を行う事ができていない。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている		○	B C Pプランを策定し職員には周知できているが、訓練が不十分。	今後B C Pプランに沿って、定期的に訓練を行い、非常災害発生時に備える。
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○	契約時にアセスメントを実施し、保護者様から本人の疾患などについての聞き取りを行っている。	今後は、アセスメント項目の見直しを行い、より疾患について確認・把握を深め、緊急時に対応できるようにしていく。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時のアセスメントにて、アレルギーの有無を確認しているが、医師の指示書の提出までは求めている。	食物アレルギーがあるご利用者の場合は、可能であれば契約時に保護者様に医師の指示書をコピーさせていただき、そこに記載されている情報をもとに適切に対応する。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	ヒヤリハット報告書は活用しているが現在はヒヤリハット事例集の作成には至っていない。	今後はヒヤリハット事例集を作成して、その内容を職員間で共有し、ご利用者に事故や怪我を未然に防ぐ体制を作っていきたい。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設置し、虐待防止のための研修を行っている。	まだ研修の機会が少ないため、今後は社内の研修だけでなく、外部による研修の導入も行っていく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 6年 5月 29日

事業所名 児童発達支援つぼみ

保護者等数（児童数）14

回収数 9

割合 64%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8	1			色々工夫して安全面も気を付けてされている印象です。	室外遊びのスペースが狭いというご意見もあったので、公園等を活用して対応していこうと思います。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	7	1		1	常に活動スペースに職員がついて子供から目を離さないように見ている印象。	以前に保護者様から療育参加を希望されて実施しましたが、そういう機会を増やしていきたいと思います。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7			2		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8			1	活動内容によって部屋が分かれていて集中して取り組めるように工夫されている。	スペースを上手く活用して取り組みたいと思います。また清掃や消毒など清潔保持に努めたいと思います。
適切な支援の 提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	9				成長に合わせて計画していると思うし、先生方も一緒に成長を喜んでくれて嬉しい。	今後も保護者様に満足いただけるように、お子様の成長や保護者様の移行に沿って取り組みます。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9			1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	8		1		毎日違う活動を行っていて子供にとって刺激のある日々になっていると思う。	今後も活動プログラムが固定化してしまわないように、情報を集めたり、職員間で意見を出し合っていきます。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	4	2		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8			1		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	5	1	1	2		

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	9				活動や様子を画像で確認する事ができ、送迎の時も様子を話してくれるので、とても理解できている。	保護者様に、お子様の今日一日の活動や様子を、より明確化できるように、今後も工夫に努めていきたいと考えています。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	1				
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			8	1	保護者会等が無いため、他の保護者との交流を図る機会がない。	以前に保護者様からの希望で、1名療育参観を実施しましたが、今後は複数の保護者様が療育参観できるように検討しています。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8			1		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	4	2	1	2		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	6	1		2		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2	3		4		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	2		5	避難場所は説明して貰っている。	非常災害時にお子様ที่安心できるように、定期的に訓練を行っていきたいと思います。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	9				日によって泣く事もあるけど毎朝先生にすぐに抱っこして貰って楽しく通えている。	一人一人のお子様が行き渋りなく、楽しく通える環境を提供していきたいと考えています。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	8	1			先生達がみんな優しく満足できている。子供だけではなく家庭も支援してくれていると感じる。	お子様が満足して通える事を常に目標としています。またお子様だけではなく、保護者様の悩みや相談には随時対応していきたいです。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。